

子育て
支援

教員紹介 file

松山東雲短期大学

保育科

岡田 恵

OKADA Megumi



短大時代に先生と。
今は取り壊されたC館
も見える

母園での
幼稚園教諭時代
絵具を楽しむ



高校時代
はじける笑顔(˘˘)



これまでの歩み

松山市生まれ。中・高・短大ずっと東雲という生粋の東雲っ子。小学生の頃、近所の公園で小さい子と遊んだり、面倒を見たりしているうちに、自然と幼稚園の先生になりたいと思うようになっていった。保育を学ぶなら！と中学から東雲に入学し、愛情あふれる先生たちに時には厳しく、時には認めてもらいながらホーム長（学級委員長）や生徒会の役を担うなどの経験をした。この、先生から大事にしてもらった経験が後々社会に出て、人間関係を築いていくうえの基盤になっていると感じるように。松山東雲短期大学保育科を卒業後は、夢叶って母園に就職するも、数年後色々な事情が重なり、新潟に移り住む。上越市役所の子育て支援課で、保護者の子育て支援業務に就いたことが転機になる。子どもの発達に悩む保護者の力になりたいと、スクーリングなどを利用し特別支援の勉強を始める。その後も幼稚園に勤めながら、大学にも通い、小学校教員の免許も取得。次は専門学校に教師として招かれ、並行して大学院で修士も取得。学会で短大時代の恩師と再会したことが、大きな転機となり、本学の教員として東雲に帰って来た。

My research theme 私の研究テーマ

子どもの遊びや
保育者の支援

子育て支援を行っています。育ちの中での不安や、時には深い問題だったり、保護者から話を聞いて、支援につなげていきます。また、現場に立つ保育者の保育方法に関する支援も行っています。

担当授業科目：保育実習指導Ⅰ・Ⅱ, 保育相談演習, 教育相談 他

教えて！先生の
日常の
ひとコマ

「体を動かしたいっ」と思い、最近
は、スポーツジムに通っています。
有酸素運動をしたり、キックボク
シングもやります。
他には週2くらいで温泉に行って、
サウナ→水風呂を何度か繰り返し、
『整って』います！

message

これから
学ぶ君へ

人との出会いを大切に。
偶然の出会いが人生の転機になるこ
ともあります。
そして、自分の思いをどんどん発信
していこう。その思いが誰かに届い
たり、道が開けたり・・・いいこと
が起るかも！



虐待
予防

教員紹介 file

松山東雲女子大学
人文科学部 心理子ども学科

心理福祉専攻

友川 礼
TOMOKAWA Aya

研究室の入口には
子どもが作った
表札を飾ってます



これまでの歩み

広島市の中心部生まれ。小学生の時は学校よりも秘密基地を作ることに夢中だった。秘密基地で絵を描いたり、教科書を読んだり、好奇心の赴くまま自由奔放に自分の世界に生きていた。そんな姿を周りの大人たちに温かく見守られながら過ごす。

ところが、入学した中学校は生徒同士の話し合いであらゆることを決定していく、クラス単位がひとつの自治体になっているような民主主義の学校だった。自由に生きていた小学生時代から一転、学級委員長や執行部会のメンバーを務めることに。2年生の時には生徒会副会長となり、リーダー研修を受けるなど、勉強よりも、部活よりも、生徒会運営が忙しかった。

高校は進学校に進んだため、粛々と勉強をする3年間であった。いざ、大学進学を考えたときに、ずっと好きだった考古学を勉強できるところにと思っていたが、結局担任の先生の勧めで社会福祉学科に入学することになった。入学後は福祉の授業内容に戸惑いと葛藤の連続の毎日だったが、「あなたみたいな面白い人は大学院に進んだ方がいいよ」というゼミの先生の勧めで、大学院へ。修士課程修了後は研究職のポストがあったにも関わらず、現場に出たい！と強く思い、反対を振り切り福祉施設で働くことに。その後、また先生に誘われ、大学に戻ったが、良縁があり松山へ。

帰りが遅いと、
指名手配の
ポスターが！



My research theme 私の研究テーマ

子ども領域における
ソーシャルワーク実践

子どもの虐待予防のための、人材養成と支援システムづくりの研究と実践をしています。

担当授業科目：子ども家庭福祉／スクールソーシャルワーク論 他

シャガールの絵は子ども
を対象とした対話型鑑賞
という研究に使います



パンデミックというボードゲームを小学生の子どもとやっています。

世界中に拡大しようとする感染症の根絶を目的とし、プレイヤー同士が協力し合って、4種類の病原体すべてのワクチンを発見するという、多人数協力型ゲームなんです。



message

これから
学ぶ君へ

大学は自分の好きなことを勉強できる場所です。大学で、自由な学びと自由な人生を手に入れてください。



特別
支援

教員紹介 file

松山東雲女子大学
人文科学部 心理子ども学科

子ども専攻

鏡原 崇史

KAGAMIHARA Takafumi

これまでの
歩み



香川県高松市生まれ。幼少期はテレビゲームには興味なく、外遊びばかりしていた。中高では、勉強はほとんどせず、部活動に夢中だった。中学の部活はバレーボール、高校では、ちょうどフェンシング部が創設された年で、面白そうだと思い入部した。フェンシングではメキメキと実力つけ、高校・大学では日本代表に！
ゆくゆくは高校の教員免許を取得し、フェンシングの指導者になりたいと思っていた。

ところが、卒業論文で、発達障害をテーマに選んだことが転機となる。研究を始めると、今まで全く勉強らしい勉強をしてこなかったためか、突然、研究の面白さに目覚めた。障がいに関する専門知識や支援法を学ぶために大学院に進学。大学院に通いながら障がいのある子どもの支援施設で働く。子どもの心理や障がいについて学んでいくうちに、より効果的な支援法を確立したいと考えるようになり、博士号を取得し、研究者の道へ。



My research theme
私の研究テーマ

障害のある子どもの支援

障がい児・者に対する効果的な支援法の開発や子どもの感情の発達に関する研究をしています。

最近では、地域の幼稚園と連携して絵本の研究にも取り組んでいます。

担当授業科目：特別支援教育、教育心理学、子ども家庭福祉 他

教えて！先生の
日常の
ひとコマ

犬の散歩が日課。名前は“ぐり”と“ぐら”です。ぐりは高松の実家で、ぐらは一緒に暮らしています。



message

これから
学ぶ君へ

好きなことを楽しみながら学んでほしい。
好きなことが見つからなくても焦らないで。
今、興味のあることを頑張っていれば、何かが起こるもの。



応用
栄養学

教員紹介 file

松山東雲短期大学

食物栄養学科

曾我 郁恵

SOGA Ikue



これまでの歩み



愛媛県最北に位置し、“海に浮かぶ神の島”と呼ばれる大三島で生まれ育つ。小学校は各学年1クラスずつ、20人ほど。夏は海で泳いだり、放課後に先生と釣りをして遊んだりする日々を過ごした。高校は今治の高校へ進学した。3年で進路を決めるときは、将来のなりたい自分が見つからなかった。そんな中で、食べることは好きだったので、将来、食に関わる仕事に就きたいと思い、兵庫県の管理栄養士養成の大学を選んだ。

大学では、勉強はほどほどにやっけて、友達と神戸や大阪に買い物に行ったり、ご飯を食べに行ったり、バランスよくキャンパスライフを満喫していた。ところが、3年で管理栄養士養成コースに進むと、様子が一変する。クラス全員が“超！真面目”で、みんな授業は全く欠席しないし、授業中、授業後に先生が質問攻めになるほどだった。

成績順にいろんなことを決めていく制度があったのも原因の1つかもしれない（今はやってないかも）。そんなクラスの中で、学業に集中せざるを得ない大学生活になってしまう。そうしているうちに栄養学が面白くなっていった。

当時の管理栄養士国家試験は5月だった。進路を迷っていたため卒業して、国家試験に受かってから、就職活動を始めようかなと、のんびり構えていた。ところが、卒業間近、先生に他大学の助手の仕事を紹介される。自分が研究職に向いていると考え、この仕事を紹介してくれたらしい。意図せず大学の教員生活がスタートした。その後、縁あって本学に着任。

My research theme 私の研究テーマ

保育所・幼稚園における
食育マネジメント

小学校就学前の子どもに対する食育は、生涯にわたる人間形成の基礎を培うものとして、その重要性があらためて見直されています。そのような中、子どもの特性や発達を理解し、保育と連携して食育を展開することが効果的であると考え、体系的に食育をマネジメントする方法を研究しています。

担当授業科目：応用栄養学、栄養学実習、アレルギーと食育 他

教えて！先生の
日常の
ひとコマ



日替わりランチ
650円



カフェ巡りが好きです。大学の近くでおススメなのが『喫茶 ミモザ』。BGMにジャズが流れて、店内も昭和レトロな雰囲気が素敵なんです。

message

これから
学ばる
君へ

やりたいと思ったことは、できる可能性があるんです。
できる未来があるんだから、自分で可能性を潰さないで！
あなたの可能性を拾ってあげられる教員でありたいと思っています。



幼児教育

教員紹介 file

松山東雲女子大学
人文科学部 心理子ども学科

子ども専攻

影浦 紀子

KAGEURA Noriko



研究室の
お人形たち

高校の時は演劇部
でした。
懐かしのラフォーレで
公演をした時の写真



これまでの歩み

松山市生まれ。幼い頃から手芸や工作が大好き。得意科目はもちろん、家庭科と図工。年の離れた弟の面倒をみるのも好きで、保育園の頃から保育士になりたいと思っていた。中学校では真面目な生徒だった。高校では進学校に進み、小学校教諭と幼稚園教諭の免許を取ろうと広島の大学に進学。大学3年の時に、現場実践のこと、人形のもつ魅力を教えてくれたゼミの先生と出会ったことが転機になる。その先生に大学院進学を勧められ、合格するも、自分の中で様々な行き詰まりを感じ、早々に休学を決めてしまう。その間、松山で保育士として働くことになった。この経験を通して、子どもの成長の面白さ、保育の奥深さを知る。周囲の勧めもあって、大学院に戻り研究することに。大学教員の道へ。大学で働きながら結婚、出産。数年後、子育て環境などを考え、松山に戻り、縁あって本学の教員に。



My research theme 私の研究テーマ

幼児教育の方法、保育方法
子ども理解

子どもが20人いれば、20通りの添い方があります。例えば、1歳の子どもたちと5歳の子どもたちでは、ボールの与え方も変わってきます。5歳であれば、1個のボールをみんなで使って遊ぶことを楽しみます。でも、1歳であれば、一人ひとりに自分のボールがあった方が楽しい。保育に正解はありません。答えは子どもの中に。子どもをよーく観察し、環境構成や言葉かけ、援助を考えることが大切です。

担当授業科目：乳児保育、遊び研究、保育カリキュラム論、
幼児教育の方法、メディアとしての絵本ⅠⅡ



小1の娘が家で時々開く『楽しむカフェ』がお気に入り。お茶を入れてくれたり、肩たたき無料チケットをくれたりします。

message

これから
学ぶ君へ

迷ったり、苦しんだり・・・
振り返ればそれが大事な宝物だったと思う。
悩んでいい!
明けない夜はありません。

